

平成 28 年度

社会福祉法人 猪苗代福祉会 事業 報 告 書

社会福祉法人 猪苗代福祉会

- 特別養護老人ホーム いなわしろホーム
- いなわしろホーム 指定短期入所生活介護事業
指定介護予防短期入所生活介護事業
- いなわしろホーム デイサービスセンター指定通所介護事業
指定介護予防通所介護事業
- いなわしろホーム 指定訪問入浴介護事業
指定介護予防訪問入浴介護事業
- いなわしろホーム 指定居宅介護支援事業
- 障害福祉サービス事業
- 猪苗代町よりの受託事業
 - ・訪問入浴サービス事業
 - ・在宅高齢者生活支援ショートステイ事業

〒969-2661 福島県耶麻郡猪苗代町大字三郷字寺南 7962 番地 1

TEL. 0242-66-4123 (代)

FAX. 0242-66-4027

TEL. 0242-66-4124 (デイサービスセンター、訪問入浴介護事業所)

TEL. 0242-66-4125 (居宅介護支援事業所)

FAX. 0242-66-4126 (居宅介護支援事業所)

目次

I	社会福祉法人 猪苗代福社会事業報告	3
II	総務課事業報告	5
III	第一事業課事業報告	15
	i 生活支援領域	18
	ii 健康支援領域	23
IV	第二事業課事業経過報告	27
	i 在宅福祉支援領域	27
	ii 居宅介護支援領域	31
V	委員会報告	32

I 社会福祉法人 猪苗代福祉会事業報告

平成 29 年 3 月 31 日現在

1. 理事会ならびに評議員会開催状況

- 第 1 回 : 平成 28 年 5 月 29 日 (日)
- 第 2 回 : 平成 28 年 7 月 28 日 (木)
- 第 3 回 : 平成 28 年 12 月 22 日 (木)
- 第 4 回 : 平成 29 年 2 月 17 日 (金)
- 第 5 回 : 平成 29 年 3 月 24 日 (金)

2. 法人監事監査実施

- 年度監査 : 平成 28 年 5 月 24 日 (火)
- 中間監査 : 平成 28 年 11 月 16 日 (水)
- 八子宗平並びに由井忠幸両監事により実施。
渡辺公認会計士立ち会い。

3. 評議員選任・解任委員会

- 開催日 : 平成 29 年 3 月 1 日 (水)

4. 入所検討委員会開催状況

- 第 1 回 : 平成 28 年 5 月 27 日 (金)
- 第 2 回 : 平成 28 年 7 月 29 日 (金)
- 第 3 回 : 平成 28 年 9 月 28 日 (水)
- 第 4 回 : 平成 28 年 11 月 29 日 (火)
- 第 5 回 : 平成 29 年 1 月 18 日 (水)
- 第 6 回 : 平成 29 年 3 月 22 日 (水)

5. 職場環境向上研修 (福島県社会福祉協議会補助事業)

- 第 1 回 : 平成 28 年 6 月 23 日 (木)
- 第 2 回 : 平成 28 年 7 月 14 日 (木)
- 第 3 回 : 平成 28 年 8 月 18 日 (木)
- 第 4 回 : 平成 28 年 9 月 8 日 (木)
- 第 5 回 : 平成 28 年 10 月 27 日 (木)
- 第 6 回 : 平成 28 年 11 月 16 日 (水)

6. 人材育成～職場内研修の進め方～ (介護労働安定センター補助事業)

- 第 1 回 : 平成 28 年 5 月 17 日 (火)
- 第 2 回 : 平成 28 年 6 月 16 日 (木)
- 第 3 回 : 平成 28 年 7 月 27 日 (水)

7. 福島県社協老人福祉施設協議会「介護職員（４年以上）研修」担当

研修日程：平成28年10月 4日（火）～ 5日（水）

開催場所：猪苗代ライジングサウナ（グ・イ・イ・ワ）

参加人数：100名

8. いなわしろホーム第1回地域ふれあい事業

事業名：「地域で生き生きと暮らしていこう！～健康長寿と介護予防～」

開催日程：平成28年11月12日（土）14:00～16:00

開催場所：猪苗代町体験交流館「学びいな」

参加人数：80名

その他：平成28年度福島県地域医療介護総合確保基金補助事業補助金活用

9. 消防用設備等点検（臨検）

点検日：平成28年10月13日（木）

点検者：点検推進指導員2名

結果：指摘事項なし

10. 消防検査

検査日：平成29年 3月 8日（水）

点検者：猪苗代消防署員2名

結果：指摘事項なし

11. 労働保険料算定調査

調査日：平成28年11月28日（月）

調査員：会津労働基準監督署員2名

内容：平成26年度および平成27年度労働保険料等の調査

結果：平成26年度過誤納金返金、平成27年度適正

12. 労務管理相談（佐藤知恵子社労士）

第1回：平成28年 5月25日（水）

第2回：平成28年 6月13日（月）

第3回：平成28年 7月21日（木）

第4回：平成28年 8月30日（火）

第5回：平成28年11月28日（月）

第6回：平成28年12月26日（月）

第7回：平成29年 1月19日（木）

第8回：平成29年 2月24日（金）

第9回：平成29年 3月31日（金）

Ⅱ 総務課事業報告

平成 29 年 3 月 31 日現在

1. 人事状況

①求人実績

■求人

求人No	職種	雇用形態	求人数	登録先	備考
1	介護員	正職員	3	仁愛看護福祉専門学校	新卒求人
2			3	郡山健康科学専門学校	
3			3	FSGカレッジリーグ	
4		準職員	1	ハロワーク会津若松	-
5			1	猪苗代町	-
6		契約職員	2	ハロワーク会津若松	-
7			2	猪苗代町	-
8		パート職員	2	ハロワーク会津若松	-
9			2	猪苗代町	-
10	看護員	正職員	1	FSGカレッジリーグ	新卒求人
11			1	ハロワーク会津若松	-
12			1	猪苗代町	-
13		準職員	1	ハロワーク会津若松	-
14			1	猪苗代町	-
15		パート職員	2	ハロワーク会津若松	-
16			2	猪苗代町	-
17	機能回復訓練士	正職員	2	仁愛看護福祉専門学校	新卒求人
18			2	郡山健康科学専門学校	
19			2	FSGカレッジリーグ	
20			2	ハロワーク会津若松	-
21			2	猪苗代町	-
22		準職員	2	ハロワーク会津若松	-
23			2	猪苗代町	-
24	生活相談員	正職員	1	会津大学短期大学部	新卒求人
25			1	郡山女子大学	
26			1	福島学院大学	
27			1	いわき明星大学	
28			1	東日本国際大学	
29			1	東北福祉大学	
30			1	ハロワーク会津若松	
31			1	求人チラシ（猪苗代町）	
32		契約職員	1	ハロワーク会津若松	-
33			1	求人チラシ（猪苗代町）	-

■採用

応募総数11名 採用総数9名

求人No	採用日	応募数	採用数	職種	雇用形態	備考
-	4/1(金)	1	1	介護員	契約職員	2/12選考
-		1	1	生活相談員	正職員	27/8/4選考
-		1	1	介護員	正職員	27/8/4選考
-	5/1(金)	1	1	介護補助員	パート職員	3/29選考
-	6/1(金)	1	1	事務員	契約職員	3/29選考
照会	6/7(火)	1	1	介護補助員	パート職員	6/7選考
7	7/1(金)	1	0	介護員	契約職員	7/1選考。辞退。
照会	7/28(木)	1	1	介護員	パート職員	7/28選考
照会	9/20(火)	1	1	介護員	契約職員	9/20選考
照会	4/17(月)	2	1	介護員	契約職員	3/30選考

照会による申し込みが多数を占めている。問い合わせがあった場合、当法人ホームページ掲載の求人情報を確認していただいている。選考にあたって利用者との適切な関わりや記録の重要性を鑑み、昨年度に引き続き作文試験を実施し、応募者の介護観や仕事に対する姿勢、文章力などを考査している。

平成28年度4月1日採用介護員1名(正職員)は仁愛看護福祉専門学校への求人からであり、介護実習生として受け入れ、指導を行った人材である。実習指導をとおした人材の確保ができています。今後も実習をマネジメントし、充実を図っていく。

②出処進退

■登用等実績

No	適用日	職種	人数	内容	事由
1	4/1(水)	介護員	1	正職員への登用	対象資格の取得
2		介護支援専門員ほか	1		勤怠実績
3		介護員	1	リターナー解任	本人意向
4		介護員	1	雇用形態の変更 (契約職員)	本人意向
5		看護員ほか	1		
6		介護員	1		
7		介護員	1	定年退職後再雇用 (契約職員)	雇用継続希望
8		介護支援専門員	1		
9	7/1(水)	主任兼生活相談員	1	特別昇給	対象資格の取得
10		主事	1		
11		介護員	3		
12	8/1(土)	介護員	1	雇用形態の変更 (パート職員)	本人意向

■離職状況

No	離職日	職種	雇用形態	人数	事由	備考
1	7/31(日)	介護員	パート職員	1	自己都合	-
2	8/31(水)	介護員	契約職員	1	自己都合	-
3	8/31(水)	介護補助員	パート職員	1	自己都合	-
4	10/13(木)	介護員	パート職員	1	自己都合	-
5	1/31(火)	主事	正職員	1	自己都合	-
6	2/28(火)	介護員	パート職員	1	自己都合	-
7	3/31(金)	機能回復訓練士	準職員	1	契約満了	-
8	3/31(金)	介護員	パート職員	1	自己都合	-

③人材育成

○フレックスタイム制度

新任職員（原則契約職員以上）を対象に、それぞれに主指導者となるフレックスタイマーを付け、フレックスタイマー及びフレックスタイマーのフォロー並びに進捗管理を行うエグゼクティブとして所属領域主任を配置し、指導を行った。パート職員にはフレックスタイム制を適用していないが、担当者を付し OJT を図った。

また、観察力、分析力、推察力、文章力の向上を目的に随時読書感想文を課し、講評を行っている。文章力について一定の基準を満たしている場合には課題数や文字制限の低減を行っている。

これらについて毎月の研修委員会にて進捗状況や課題などを確認し、対応を検討した。

○取り組み状況

フレックスタイマーまたはエグゼクティブがフレックスタイムプログラムを作成。ひと月毎に到達目標を設定し、フレックスタイマーとエグゼクティブで各項目を評価し、段階的に育成指導している。

読書感想文については、当初より高い文章力が見て取れるが、単純に文章力の鍛錬だけではなく、課題図書にはそれぞれ「価値観の多様性」「ケアの本質」といったテーマがあり、講評を通じて社会福祉に携わる人として大切にしたい視点やメッセージを伝えている。

【読書感想文】

第1回（3/18）：山田詠美『僕は勉強ができない』

第2回（8/22）：梨木香歩『西の魔女が死んだ』

第3回（12/30）：小川洋子『博士の愛した数式』

■資格取得支援

No	対象資格	内容	対象者	備考
1	介護支援専門員	受験案内取り寄せ助成	6	-

■実習等受入状況

○内容別受入状況

No	期間	内容	派遣機関	受入事業所	受入数	延人数
1	6/1-29	介護実習Ⅱ	仁愛看護福祉専門学校	特養	2	34
2	6/23-24	福祉体験学習	東中学校	デｲｯﾁｰﾋﾞｽ	5	10
3	7/26	小・中学校経験者研修	猪苗代町教育委員会	デｲｯﾁｰﾋﾞｽ	1	1
4	8/10	小・中学校経験者研修	猪苗代町教育委員会	デｲｯﾁｰﾋﾞｽ	2	2
5	8/22-26	介護等体験（教員免許）	福島県社会福祉協議会	デｲｯﾁｰﾋﾞｽ	1	5
6	9/5-10/27	介護実習Ⅲ	仁愛看護福祉専門学校	特養	2	58
計					13	110

○事業所別受入数

月	法人		特別養護老人ホーム		デｲｯﾁｰﾋﾞｽ		計	
	受入数	延人数	受入数	延人数	受入数	延人数	受入数	延人数
4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	2	34	5	10	7	44
7	0	0	0	0	1	1	1	1
8	0	0	0	0	3	7	3	7
9	0	0	2	28	0	0	2	28
10	0	0	2	30	0	0	2	30
11	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	6	92	9	18	15	110

介護福祉士養成の介護実習については、実習生が目安をもって実習をｽｰｽﾞに進められるよう、実習計画を立案し、随時振り返りを行い、指導を図った。

体験学習は、高齢者施設が初めてという研修生が多く、また、研修期間が短いことから「楽しかった」と感じてもらい、体験後も興味関心を持ってもらえるよう原則デｲｯﾁｰﾋﾞｽでの受け入れを図った。

■障害者職場定着支援

No	障害区分	職種	雇用形態	人数	入職日	備考
1	精神障害	介護補助員	パート職員	1	H26.10.20	-
2	身体障害	介護補助員	パート職員	1	H27.4.20	-

No.1 の従業員については業務をおおまかに説明し、細かいところは任意で良い加減で仕事をするということは難しく、そうしたところで他従業員との間で認識のずれが生じ、不穩になることがある。そうした精神的不調と膝痛や腰痛などの身体的不調が重なり欠勤が多い。また、苦手な仕事を避け業務に偏りが見られるため、業務日誌を作成し業務標準化を図った。

本人の要望時など随時、面談を行い、精神的不調については、顔のこわばりや会話が噛み合わない、煙草の回数が増えるなどの兆候が確認できるため、休憩や早退などの指示をし、身体的不調については早期受診を促している。加えて障害者就業・生活支援センター職員の巡回指導を月1回受け入れ、随時相談に乗っていただいている。

No.2 の従業員については、重い物の持ち運びが難しいことから業務配慮し、リネ交換や机の在庫管理などを担っていただいている。

■役職員研修受講状況

施設外研修

<役員>

実施月日	研修名	場所	職種	人数	内容
4 11	平成28年度福島県社会福祉協議会老人福祉施設協議会総会	ビッグパレットふくしま	施設長	1	平成27年度事業報告について他、講演「原発事故の教訓を生かしたプロジェクトについて」
6 2	社会福祉法人代表者会議	郡山ユラックス熱海	施設長	1	社会福祉法人制度の概要について、会計監査人による監査とは他
28	猪苗代町高齢者事業所防火防災連絡協議会事業第1回猪苗代町高齢者事業所防火防災座談会	猪苗代町社会福祉協議会	施設長	1	いなわしろホーム防災への取組み（一ノ瀬慶子） 情報伝達のコミュニケーションスキル（フリーアナウンサー常盤秀次）
30	平成28年度福島県社会福祉協議会社会福祉法人経営者協議会総会並びに制度改革対応セミナー	郡山ユラックス熱海	施設長	1	平成27年度事業報告及び収入支出決算について、「生活困窮者自立支援事業への取組み」他
7 5	平成28年度会津地区老人福祉施設協議会	ルネサンス中の島	施設長	1	平成27年度事業報告並びに決算報告の承認について他
7	平成28年度安全運転管理者講習	ホテルリステル猪苗代	施設長	1	安全運転管理者講習
8 22	平成28年度社会福祉法人理事研修	ビッグパレットふくしま	施設長	1	これからの社会福祉法人の役割と使命
9 26	平成28年度職場におけるメンタルヘルズ研修	ビッグパレットふくしま	施設長	1	福祉職場でのメンタルヘルズについて、傾聴技法について、セルフケアと自律訓練法について
10 6	平成28年度福祉サービスに関する苦情解決研修会	郡山ユラックス熱海	施設長 第三者委員	2	医療と介護福祉との連携について、事例検討他
11 10	第70回福島県社会福祉大会	郡山ユラックス熱海	施設長	1	記念講演：ことばとコミュニケーション（梅津正樹）
20	平成28年度 県社協老施協在宅部会研修会	ホテル華の湯	施設長	1	デイサービスセンターが設置された背景と役割、先進事例他
21	平成28年度社会福祉法人監事研修	郡山ユラックス熱海	施設長	1	社会福祉法人制度改革をふまえた監事監査ポイント
12 2	平成28年度県老施協ICT研修会	福島県総合社会福祉センター	施設長	1	介護分野におけるICTを理解する
7	平成28年度社会福祉法人経営協社会福祉法人制度改革対応セミナー	ホテル華の湯	施設長	1	改正法を生かした社会福祉法人の法人経営、改正法施行に向けたチェックポイント他
12	平成28年度第3回社会福祉法人等代表者会議	福島県自治会館	施設長	1	社会福祉法人制度改革について、福祉サービス第三者評価について、福祉・介護人材定着の取組事例について他
1 27	平成28年度会津地区老人福祉施設協議会総会（第2回）	会津アビオ	施設長	1	(1) 平成29・30年度会津地区老施協役員の選出について (2) その他 映画「JUST GO ON」の鑑賞会
2 23	猪苗代町高齢者事業所防火防災連絡協議会事業	猪苗代消防署 大会議室（2F）	施設長	1	第28回定例会
3 9	平成28年度福島県社会福祉協議会社会福祉法人経営者協議会総会	郡山ユラックス熱海	施設長	1	岩手県における福祉施設経営法人による公益的な取組から

＜職員＞

実施月日	研修名	場所	職種	人数	内容	
4	6	平成28年度次世代人材育成研修（第3回）	ビッグ・バレットふくしま	副施設長	1	社会福祉法人の存在意義と役割
	19	平成28年度新任認定調査員研修会	ユラックス熱海 総務主任(生活相談員) 介護員	1 2	本県における介護保険制度の運営状況、要介護認定の基本事項、認定調査の実施方法	
5	13	平成28年度認知症高齢者対応研修	ユラックス熱海	介護員	1	高齢者の心理と行動、認知症についての基本的な理解と行動への対応
	24	介護支援専門員勉強会（地域包括支援センター）	地域福祉交流センター	介護支援専門員	4	身体障害者制度について、事例検討
6	3	第24回衆議院議員通常選挙に関する不在者投票事務説明会	会津若松合同庁舎	主事 生活相談員	1 1	不在者投票事務の管理
	7-8	平成28年度県社協老人福祉施設協議会事務長等職員研修会	ホテル華の湯	主事	1	現場の声が制度をつくる、社会福祉法の一部を改正する法律への対応について他
	8	平成28年度次世代人材育成研修（第4回）	ビッグ・バレットふくしま	副施設長	1	戦略的人事考課制度の必要性
	24	平成28年度介護力向上講習会1/6	ジョーケ本館ビル（宮城県仙台市） 介護員 機能回復訓練士 介護支援専門員	1 1 1	認知症ケア理論	
	28	猪苗代町高齢者事業所防火防災連絡協議会事業第1回猪苗代町高齢者事業所防火防災座談会	猪苗代町社会福祉協議会 総務主任(生活相談員) 介護員	1 1	いなしわろホーム防災への取組み（一ノ瀬慶子） 情報伝達のコミュニケーションスキル（フリーアナウンサー常盤秀次）	
	29	平成28年度ボランティア受入福祉施設等担当者研修【基礎編】	ビッグ・バレットふくしま	生活相談員	1	施設におけるボランティアの役割と位置づけ、ボランティアを受け入れるために
	29-7/1	平成28年度中堅職員研修	福島県総合社会福祉センター	介護員	1	中堅職員としてのキャリアデザインとセルフマネジメントのあり方を学ぶ他
7	5	平成28年度会津地区老人福祉施設協議会	ルネッサンス中の島	総務主任（生活相談員）	1	平成27年度事業報告並びに決算報告の承認について他
	6	平成28年度ボランティア受入福祉施設等担当者研修【環境づくり編】	ビッグ・バレットふくしま	生活相談員	1	効果的にボランティアを受け入れるための体制づくりと社協との連携
	11	平成28年度老人福祉施設職員研修Ⅱ	ユラックス熱海	介護員	1	こういう場合どうする？、アサーティブであるということ～考え方と行動～、アサーティブコミュニケーション他
	11-12	平成28年度社会福祉法人主任/係長講座	東京ファクションカン	総務主任（生活相談員）	1	福祉施設で働く職員のためのセルフイメージ、これからの社会福祉法人と主任・係長の役割他
	14	平成28年度指定障害福祉サービス事業者等集団指導	下郷ふれあいセンター	主事	1	障害福祉サービス事業者等集団指導方針について他
	19	平成28年度社会福祉法人事務長等研修	ビッグ・バレットふくしま	副施設長	1	社会福祉法人の制度改革について、労働契約の注意点について他
	19	第1回介護事業者支援セミナー（終末期ケア）	ビッグ・バレットふくしま	介護員	2	介護職として何ができるか、利用者様が最期までその人らしい生活をするためにはどうしたら良いか等
	24	介護支援専門員勉強会（地域包括支援センター）	地域福祉交流センター	介護支援専門員	4	事例検討（事例提供：ケアル介護センター）
	22	平成28年度介護記録の書き方	ビッグ・バレットふくしま	介護員	1	介護記録の書き方
	27-29	平成28年度福島県認知症介護実践者研修①/2	福島県農業総合センター	介護員	2	認知症ケアの基本的視点と理念、認知症ケアの倫理、認知症の人の理解と対応 他
	29	平成28年度介護記録の書き方特定給食施設等講習会	猪苗代町「学びいな」	管理栄養士	1	栄養管理について、衛生管理について
8	1-3	平成28年度福島県認知症介護実践者研修②/2	福島県農業総合センター	介護員	2	認知症の人への非薬物的介入方法、アセスメントとケアの実践の基本他
	17-19	平成28年度初任者研修	福島県総合社会福祉センター	生活相談員	1	福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理、福祉サービスの基本理念と倫理、対人関係スキルとコミュニケーション他
	19	平成28年度介護力向上講習会2/6	ジョーケ本館ビル（宮城県仙台市） 介護員 機能回復訓練士 看護員	1 1 1	身体的自立支援の基礎知識と理論	
	22	会津・南会津圏域在宅医療・介護連携調整事業ケアマネジャー説明会及び第1回退院調整ルール策定検討会	会津大学	介護支援専門員	1	福島県会津・南会津圏域における退院調整ルール策定を目指して他
	23	平成28年度新任認定調査員研修会	福島県男女共生センター	介護員	1	本県における介護保険制度の運営状況、要介護認定の基本事項、認定調査の実施方法
	24-26	平成28年度初任者研修	福島県総合社会福祉センター	介護員	1	福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理、福祉サービスの基本理念と倫理、対人関係スキルとコミュニケーション他
	27	平成28年度社会福祉法人における中長期経営計画策定研修会	福島県総合社会福祉センター	副施設長	1	中長期経営計画の概念、策定演習
9	14	会津・南会津圏域在宅医療・介護連携調整事業ケアマネジャー説明会及び第2回退院調整ルール策定検討会	会津大学	介護支援専門員	1	福島県会津・南会津圏域における退院調整ルール策定を目指して他
	20	平成28年度社会福祉施設栄養士研修	ビッグ・バレットふくしま	管理栄養士	1	安全に美味しく食べるために、とろみ水を体験しよう他演習
	21	介護支援専門員勉強会（地域包括支援センター）	地域福祉交流センター	介護支援専門員	3	事例検討（ケース提供：会津中央居宅）
	26	平成28年度福島県認知症介護実践者研修報告会	福島県農業総合センター	介護員	2	認知症介護実践者研修報告会報告会
	30	平成28年度県社協老施協「機能訓練担当研修会」	グランド・エッジ 那須白河	機能回復訓練士	1	高齢者施設における機能訓練について、リフト・リフト他
	30	高次脳機能障がい者に関する圏域別基礎研修会(会津・南会津圏域)	会津若松合同庁舎	介護員	1	高次脳機能障がいの基礎知識、事例検討及び体験談、相談会他

10	14	平成28年度介護力向上講習会3/6	ショーケー本館ビル (宮城県仙台市)	介護員 機能回復訓練士 介護員	3	認知症ケア（事例）
	17	平成28年度社会福祉法人社会福祉協議会老協介護職員（4年未満）研修会	スパリゾートハワイアンズ	介護員	1	水分から考える高齢者の介護～自立支援介護を生理学の視点から学ぶ～
	18-22	平成28年度認知症介護実践リーダー研修1/4	福島県男女共生センター	介護員	1	認知症介護実践リーダー研修の理解、役割、チームアプローチの基本と実践、職場内教育法の理解と実践他
	20-21	平成28年度県社協老協「給食担当者研修会」	東山温泉源瀧	管理栄養士	1	口から食べる支援の重要性について他
11	42958	平成28年度認知症介護実践リーダー研修2/4	福島県男女共生センター	介護員	1	認知症ケアの指導の基本的視点と論理指導、家族支援方法の指導、自施設実習計画の策定他
	16	介護支援専門員勉強会（地域包括支援センター）	地域福祉交流センター	介護支援専門員	2	事例検討（ケース提供：JA会津よつば、ケアテル介護センター）
	18	会津・南会津圏域在宅医療・介護連携調査事業第5回退院調整ルール策定検討会	北会津公民館	介護支援専門員	1	第1回病院・ケアマネージャ合同会議の結果報告・課題整理他
	23	健康講演会「大腸がん・大腸ポリープについて」	学びいな	介護支援専門員 看護婦	2	大腸がん・大腸ポリープについて
	29	会津医療センター公開セミナー「糖尿病治療の現在」	会津医療センター	介護支援専門員	1	糖尿病治療の現在
	30	平成28年度認知症介護実践リーダー研修3/4（中間報告会）	福島県男女共生センター	介護員	1	中間報告会
12	7	平成28年度福祉サービスに関する苦情解決研修会【応用編】	郡山市ユラックス熱海	副施設長	1	苦情申出人の理解、安全配慮義務について、苦情解決制度の意義と本質他
	9	社会福祉施設における労働災害防止研修会	ピカリンホール	機能回復訓練士	1	社会福祉施設における労働災害発生状況および災害事例について、労働災害防止のための施策について
	9.12-13.15-16	平成28年度福島県認知症介護実践者研修	郡山市ユラックス熱海	介護員 機能回復訓練士 介護員	3	認知症ケアの基本的視点と理念、認知症ケアの倫理、認知症の人の理解と対応、認知症の人への非薬物的介入方法他
	13	平成28年度介護力向上講習会4/6	ショーケー本館ビル (宮城県仙台市)	介護員 機能回復訓練士 介護員	3	おむつケアのまとめ、常食化理論（1）食事状況の検討（施設事例）（2）認知症改善例（事例）
	17	平成28年度東北ブロック老協介護職員勉強会	TKPガーデンシティ仙台	生活相談員	1	在宅生活を継続するための新たな支援、事例報告にみる想定リスクへの見解、いま求められている介護職員の課題と挑戦
	20	平成28年度認知症介護実践リーダー研修④1/4（報告会及び修了式）	福島県男女共生センター	介護員	1	自施設実習報告会・修了式
1	13	会津・南会津圏域在宅医療・介護連携調整事業「退院調整ルール運用開始に向けた全体説明会」	会津若松市文化センター	介護支援専門員	1	退院調整ルール運用開始に向けた全体説明会
	18	介護支援専門員勉強会（地域包括支援センター）	地域福祉交流センター	介護支援専門員	2	事例検討（ケース提供：猪苗代町社協、ゆうき指定居宅事業所）
	20	平成28年度福島県認知症介護実践者研修報告会	郡山市ユラックス熱海	介護員	1	認知症介護実践者研修報告会報告会
	27	平成28年度ケーススタディ発表会	仁愛看護福祉専門学校 介護福祉課 3F集会室	総務課主任	1	平成28年度ケーススタディ発表会
	31	介護予防・日常生活総合事業に関する事業所説明会	猪苗代町役場正庁B	副施設長 在宅福祉支援課長 介護支援専門員	5	（1）移行に関する説明（猪苗代町） （2）総合事業の請求事務について（国保連合会）
2	3	平成28年度介護力向上講習会⑤/6	ショーケー本館ビル (宮城県仙台市)	副施設長 在宅福祉支援課長 介護支援専門員	3	常食化（事例）「むせの少ない安全な食事の条件」
	3	平成28年度会津地域認定調査従事者（現任）研修会	会津大学 大講義室	介護支援専門員 総務課主任	7	（1）説明 介護保険制度・要介護認定関係データについて（仮） （2）講義 認定調査の基本的な考え方とその注意ポイントについて（仮）
	4	第11回福島高次脳機能障害リハビリテーション講習会	総合南東北病院	機能回復訓練士	1	「高次脳機能障害の支援～家族支援を中心に～」 「今を大切に」
	13	平成28年度 全会津介護支援専門員協会研修	アピオスペース	介護支援専門員	1	会津・南会津医療圏域在宅医療・介護連携調整事業「退院調整ルール」の運用について
	16-17	全国社会福祉法人経営青年会 平成28年度研修企画事業 専門講座（第2回）	TFTビル研修室（TFTビル9階）東京都	総務課主任	1	チームビルディングを活用した職場の課題解決手法の取得
	17	平成28年度 第9回 福島県介護を学ぶ学生の研究交流会	郡山市中央公民館	介護員 機能回復訓練士	2	平成28年度 第9回 福島県介護を学ぶ学生の研究交流会
	20-21	平成28年度福島県社会福祉協議会老人福祉施設協議会第2回総会及び施設長研修会	ホテル華の湯	副施設長	1	平成28年度福島県老人福祉施設協議会 第2回総会及び施設長研修会
	22	社会福祉法人会計実務者決算講座	メルパルク仙台	副施設長	1	社会福祉法人制度改革により求められる事業運営の透明性と会計担当者の役割、会計処理、決算実務ポイント、社会福祉充実経費算定方法、計画策定の流れ
3	3	認知症ケア実践研修	郡山市福島県農業総合センター	介護員	1	「認知症の理解と適切な対応について」 「認知症初期支援を活用した取り組みについて」
	4	平成28年度仁愛看護福祉専門学校謝恩会	会津若松ワシントンホテル	副施設長	1	仁愛看護福祉専門学校 謝恩会
	11	テクノエイド研修会	総合南東北病院北棟1階NABEホール	機能回復訓練士 介護員	2	シーティングの基本と実践 地域包括システムに向けた多職種連携糖尿病治療の現在シーティング
	13-14	一般教育 第68期 自衛消防隊員教育	福島県消防学校	介護員	1	第67・68・69期 自衛消防隊員教育
	15	地域包括支援センター主催介護員支援専門員勉強会	地域福祉交流センター1F中会議室	介護支援専門員	4	事例検討 他
	27	平成28年度介護力向上講習会6/6	ショーケー本館ビル (宮城県仙台市)	介護員 機能回復訓練士	2	常食化（事例）

施設内研修

実施月日	研修名	講師	職種	人数	内容
5月12日	5月職員会	ALSOK総合警備保障	全職種	10	AED取扱説明会
6月1,2,3日	5月職員会	副施設長 一ノ瀬慶子	全職種	80	事業決算報告、一時金支給について
6月1日	平成28年度新任職員研修	各担当者	事務員	1	認知症7・生活リハビリ・口腔7・排泄7・ケミカル7・栄養食 事形態・OA取扱・労働安全衛生教育他
6月2日	見守りセンサーデモ	ホト郡山	全職種	-	離床センサー介護味7ットのデモ（株式会社パ・イオパ）
6月23日	平成28年度職場環境向上事業1/6	ヒューマン労務管理オフィス 社会保険労務士 菅野公司	リーダー以上	対象 13名	事業所における管理職とは 自己評価、マネジメント力の基礎知識
7月12,15,21日	7月職員会	第一事業課主任 小坂橋哲也	全職種	76	身体拘束とリスク
7月14日	平成28年度職場環境向上事業2/6	ヒューマン労務管理オフィス 社会保険労務士 菅野公司	リーダー以上	対象 13名	部下とのコミュニケーション力の習得Ⅰ ビジネスコーチングの基本を学びコミュニケーション力を高める
7月27日	職員全体会（研修委員会）	榊花のん代表取締役 人材育成コンサルタント 藤原悦子	全職種	63	職場内研修の進め方
8月18日	平成28年度職場環境向上事業3/6	ヒューマン労務管理オフィス 社会保険労務士 菅野公司	リーダー以上	対象 13名	部下とのコミュニケーション力の習得Ⅱ ビジネスコーチングの基本を学びコミュニケーション力を高める
8月22日	平成28年度新任職員研修	各担当者	介護員 介護員補助	2	認知症7・生活リハビリ・口腔7・排泄7・ケミカル7・栄養食 事形態・OA取扱・労働安全衛生教育他
8月31日	感染症対策委員会勉強会① （感染症対策委員会）	東京ササキ株 菊地信	全職種	-	手がどの位汚れているか実験により理解する。試薬を使用し 紫外線を当て、どの位汚れがあるか実験する。
9月8日	平成28年度職場環境向上事業4/6	ヒューマン労務管理オフィス 社会保険労務士 菅野公司	リーダー以上	対象 13名	部下とのコミュニケーション力の習得Ⅲ DVDによるコーチングの確認とロールプレイング
9月20日	9月職員会（安全衛生委員会）	針生ヶ丘病院 大森洋亮	全職種	72	こころといのちを支える地域づくり～リラックス健康法とかなり ンクマインドを見につけよう～
9月27,28日	平成28年度新任職員研修	各担当者	介護員	1	
10月17・18日	平成28年度新任職員研修	各担当者	介護員	2	認知症7・生活リハビリ・口腔7・排泄7・ケミカル7・栄養食 事形態・OA取扱・労働安全衛生教育他
10月27日	平成28年度職場環境向上事業5/6	ヒューマン労務管理オフィス 社会保険労務士 菅野公司	リーダー以上	13	問題解決力の習得 様々な事例を基に問題解決の力を学ぶ
11月16日	平成28年度職場環境向上事業6/6	ヒューマン労務管理オフィス 社会保険労務士 菅野公司	リーダー以上	13	部下指導の極意とは 上司が不在でも機能する職場をつくるとは
11月16日	感染症対策委員会勉強会② （感染症対策委員会）	東京ササキ株 菊地信	全職種	16	手がどの位汚れているか実験により理解する。試薬を使用し 紫外線を当て、どの位汚れがあるか実験する。
12月15,26日	12月職員会	副施設長 一ノ瀬慶子 総務主任 宮澤重嗣 株式会社 ホト郡山	全職種	57	「職員倫理規程」に基づく行動指針 特定個人情報取扱基本方針（マイパ） 介護味7取扱説明
2月24,27,28日	2月職員会	機能回復訓練士 福地 喜裕	全職種	61	根拠のある介護を目指して「何故、それを行うのか？」と いう感覚「この原因は？」という分析的態度

講師派遣

実施月日	派遣事業名	場所	職種	講師	内容
4	19 平成28年度機能訓練事業①	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導
5	10 平成28年度機能訓練事業②	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導
6	7 平成28年度機能訓練事業③	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導
24	猪苗代町老人クラブ 料理講習会【第一回】	猪苗代町農村環境改善センター	介護支援専門員	小坂橋栄子	高齢者健康づくり、一人暮らしや寝たきりの高齢者へ料理情報提供
28	猪苗代町高齢者事業所防火防災連絡協議会事業第1回猪苗代町高齢者事業所防火防災座談会	猪苗代町社会福祉協議会	副施設長	一ノ瀬慶子	いなしわしホーム防災への取組み
7	19 平成28年度機能訓練事業④	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導
26	猪苗代町老人クラブ 料理講習会【第二回】	猪苗代町農村環境改善センター	介護支援専門員	安部真由美	高齢者健康づくり、一人暮らしや寝たきりの高齢者へ料理情報提供
8	23 平成28年度機能訓練事業⑤	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導
9	13 平成28年度機能訓練事業⑥	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導
10	4 平成28年度機能訓練事業⑦	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導
11	8 平成28年度機能訓練事業⑧	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導
12	6 平成28年度機能訓練事業⑨	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導

1	17	平成28年度機能訓練事業⑩	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導
2	7	平成28年度機能訓練事業⑪	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導
3	14	平成28年度機能訓練事業⑫	猪苗代町農村環境改善センター	機能回復訓練士	牛木邦夫	基本動作、日常生活動作 運動療法、レクリエーション等の指導

2. 労務管理状況

①私傷病欠勤状況

No	期間	職種	業務配慮
1	8/28-31	介護支援専門員ほか	-
2	11/8-12/19	介護員	-
3	12/25-1/12	介護員	-
4	断続的複数回	介護補助員	前年度に引き続き、パート時間の短縮

②労働災害発生状況

No	発生日	職種	発生状況	業務配慮
1	7/29	介護員	利用者からの疥癬感染	ディスポーザブルグローブの使用
2	10/1	看護員	利用者からの足蹴	-
3	12/13	介護補助員	浴室清掃の際の転倒	-
4	12/29	介護支援専門員	食堂での転倒	-

③産休育休等取得状況

No	内容	期間	職種	備考
1	育児短時間勤務	27/9/1-28/3/31	介護員	28/4/1より通常業務
2	育児休業	27/10/31-29/3/3	介護員	29/3/4復帰
3	育児短時間勤務	27/11/1-28/8/31	介護員	28/9/1より通常業務（夜勤免除）
4	産前産後休業	28/2/26-5/31	介護員	29/4/5復帰
	育児休業	28/6/1-29/4/4		
5	産前産後休業	28/7/8-10/13	機能回復訓練士	29/4/10復帰
	育児休業	28/10/14-29/4/9		

3. ケアマネジメント状況

①施設ケアプラン立案 ※下期より計上

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
継続	-	-	-	-	-	-	8	8	17	15	17	13	48
新規	-	-	-	-	-	-	3	3	4	2	4	0	48
看取	-	-	-	-	-	-	4	3	3	5	3	1	96
計	-	-	-	-	-	-	15	14	24	22	24	14	192

②長谷川式評価スケール

得点	評価	人数
4～5点以下	最高度	49
10点以下	高度	10
15点以下	中度	4
20点以下	軽度	11
25点以上	正常	6
計		80

③月別要介護度 ※下期より計上

要介護	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	1	3	1	4	2	4	2	4	2	4	1	3
3	3	9	4	8	3	9	3	10	3	12	5	12
4	5	33	4	35	5	35	5	40	6	35	7	33
5	7	22	6	21	5	19	5	19	5	19	5	18
平均介護度	4.1		4.1		4		4		4		4	
前年度平均	4.2		4.2		4.2		4.1		4.1		4.1	

Ⅲ 第一事業課事業報告

平成 29 年 3 月 31 日現在

1. 昨年度からの取り組み状況

[介護保険制度改正に伴う課題]

- ・介護保険制度の改正で入所対象者が原則要介護 3 以上となり、食事介助者が急増するなど重度化している。
- ・重度化と高齢化が進み、看取り者が増えている。平成 28 年度は 33 名の退所があり、昨年度より 10 人増えている。毎月約 3 人の退所ペースである。特に 4～5 月は 1 カ月で 10 人の退所があった。
- ・長期入所待機者の減少や老健等の困り込みなどで、新規入所者の検討が困難になっている。
- ・利用者負担の増額で、家族から施設に対する要望が多くなっている。

[評価が高まっている活動]

- ・リハビリスタッフの増員で、特にショートステイ利用者、家族からの評価が高まった。
- ・当施設の取り組みの外部発信（一部は全国レベルでの紹介）により、施設評価も高まった。

①707制

- ・各707ともに自分たちが求めている利用者本意のケアについては、まだまだと感じている。707の特色もあまり無く、流れ介護が主体となってしまっている状況である。
- ・各707とも毎月利用者様のために会議をしているが、介護員が個別ケアをしたくても重度化により 1 人当たりの介護量が増えているため、日頃のケアだけで手がまわらないのが現状である。特に食事介助者が増え、職員の休憩時間や帰宅時間まで食い込むこともしばしばの状況にある。
- ・7:00～9:00、18:00～19:00 の手薄な時間帯のパートなどはなかなか見つからない。
- ・正職員、準職員は夜勤が主で、日中が契約職員とパート職員であるのも特色が出ない要因の一つである。

②個別ケア

- ・3 年目の取り組みのためか、マンネリが出てきており水分摂取などの成果が上がっていない。昨年の反省もしっかりできないまま、委員会委員長の変更等もあり、6 月頃まで動きが悪かった。その後動きはあるが全職員での取り組みについては認識が薄い状況である。
- ・日中のオムツはずしについては、良い成果が出ており、トイレおよびベッド・ダブル利用者は全体の 55%と半数を超えている。しかし、トイレ誘導者も 2 人介助が多いため、食後の誘導に時間がかかり、職員の休憩時間や帰宅時間が遅れてしまうことがある。食事やケア時間帯の見直しが必要になっている。
- ・次年度は、施設独自の個別ケアを構築し、全職員で実施できるようにしていく。

③生活介護リハビリ

- ・平成 28 年 2 月 15 日に会津方部老人福祉施設研修会で、当施設の生活介護リハビリを他施設へ紹介し、当施設職員が講師となり指導を行った。また、10 月 5 日には福島県老人福祉施設協議会研修会でも、岡本作業療法士とともに他施設に当施設のケアを紹介した。
- ・先進的な取り組みをしている施設として、岡本作業療法士が全国の報告会等でも当施設の紹介をしている。今後もより良いケアと職員の腰痛等予防に取り組み、地域や全国へ施設の取り組みをアピールしていく。
- ・現在は長年見直しの無い、介護の教科書を岡本作業療法士とともに作成し、全国発信を目指している。

④口腔ケア

引き続き、月 4 回の 3 名の歯科衛生士、月 1 回歯科医師の往診が行われている。その指導をもとに職員が毎食後の口腔ケアを実践している。寝たきりや経管栄養者の 1 日 1 回の口腔ケアで口臭はほとんどなくなった。誤嚥性肺炎予防や食事形態改善にもつながっている。

■排泄ケアの取り組み状況

		排泄状況	取組前		取組後
排泄状況	1F	リハビリパンツ(日中)使用でのトイレ排泄	7	→	21
		布パンツ使用でのトイレ排泄	2		5
	2F	リハビリパンツ(日中)使用でのトイレ排泄	12		14
		布パンツ使用でのトイレ排泄	0		2

平成 26 年度から引き続き、オムツでの排泄ではなく、トイレやポータブルトイレでの排泄が増えている。3 年前まではほとんどオムツ使用で、トイレ誘導者も 20 人程度だったが現在 42 人と伸び続けている。

機能回復訓練士の増員やフロアケア、生活介護リハビリ、個別ケアが好結果の要因と考えられる。

■水分摂取強化の取組状況

○共通目標: 食事以外で 1,500cc/日

		昨年度		3 月	目標達成者数	備考
摂取平均量	1F	1,326cc	→	1,242cc	13/49 名	平均 1,000cc/日 未満 12 名。
	2F	1,484cc		1,407cc	13/19 名	平均 1,000cc/日 未満 3 名。

平成 26 年度からの取り組みだが、摂取量は昨年夏にピークなり、現在は少し下降している。原因は新規入所者の伸び悩みと、身体的に水分摂取が難しくなっている利用者が増えたこと、職員のマンネリ化で積極性が無くなったことが原因と思われる。

2. 平成 28 年度からの取り組み

①リハビリの充実

昨年度から増員したリハビリスタッフについては、特別養護老人ホームとショートステイともに好評である。

居宅訪問は一部の家族から遠慮されることもあるが、実際専門のリハビリスタッフからアドバイスを受たり、家庭生活にあったリハビリの提供が成果につながっており、徐々に高評価をいただけるようになってきている。

リハビリルームの畳スペース、アロマテラピー、脳トレ（パズルや算数問題、ぬりえ等）などの取り組みも行われ、身体面だけではなく、脳にも刺激を与えることで精神面へのアプローチも図っており、日々充実している。

②いなわしろホームの取り組みについての外部発信

上記 1-③の取り組みにより対外的に見ても当施設が注目されてきている。11 月には猪苗代町民向けの講演やテーマ別相談会の開催し、地域とのふれあいを通して当施設の取り組みを紹介した。今後も継続し、地域の要望に応えられる施設を目指している。

③車椅子の更新

毎年 2～3 台の更新をしてきたが、老朽化で危険な車椅子が増えたため、今年は 20 台を更新した。機能回復訓練士のアドバイスで、利用者の状態に適したものを 4 種類に分けて更新したため、様々な場面で活用できている。フルタイプも 4 台追加、使用することで、下肢等の浮腫や円背者の呼吸改善に効果が出ている。

3. 次年度の課題等

- ・介護福祉士の喀痰吸引等研修受講
- ・介護員主体の集団リハビリやレクリエーションの充実
- ・資格取得ならびに内部研修実施による認知症ケアの充実
- ・地域ふれあい事業の継続と、内容の充実
- ・地域ニーズの探求と地域に根差した施設づくり
- ・介護の教科書作成などを通じた全国へのいなわしろホーム PR
- ・ターミナルケアの協議、実践

i 生活支援領域

1. 出身地別入所・退所状況

市町村別 性別	現 員			平成28年度の異動状況					
				入 所			退 所		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
猪 苗 代 町	15	59	74	9	22	30	6	22	27
会 津 美 里 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会 津 若 松 市	0	3	3	0	1	1	0	2	2
会 津 坂 下 町	0	1	1	0	0	0	0	0	0
北 塩 原 村	1	0	1	0	0	0	1	1	2
磐 梯 町	0	1	1	0	1	1	0	1	1
合 計	16	64	80	9	24	33	7	26	33

2. 月別入所・退所状況

月別 性別	入 所			退 所		
	男	女	小計	男	女	小計
平成28年 4月	0	0	0	1	4	5
5月	1	4	5	1	1	2
6月	3	2	5	0	3	3
7月	0	1	1	1	1	2
8月	1	1	2	0	1	1
9月	0	2	2	0	2	2
10月	0	3	3	2	2	4
11月	1	2	3	1	3	4
12月	1	2	3	0	1	1
平成29年 1月	0	2	2	0	3	3
2月	1	4	5	0	4	4
3月	1	1	2	1	1	2
合 計	9	24	33	7	26	33

3. 退所理由

区別 \ 性別		男	女	計
家族引取り		0	0	0
他施設へ		0	0	0
長期入院		0	0	0
死 亡	施設内(看取)	5	20	25
	入院後	2	6	8
	自 宅	0	0	0
そ の 他		0	0	0
計		7	26	33

4. 利用者性別・年令別構成

○最高齢：105歳 ○最年少：59歳 ○平均年齢：88.31歳（男性：81.36歳/女性：90.04歳）

年齢別 \ 性別	男	女	計	年齢別 \ 性別	男	女	計
65歳未満	1	0	1	85～89歳	4	16	20
65～69歳	1	1	2	90～94歳	1	21	22
70～74歳	0	0	0	95～99歳	1	15	16
75～79歳	3	3	6	100歳以上	0	2	2
80～84歳	5	6	11	計	16	64	80

5.日常生活状況

ADL内容	食 事					移乗動作				移動手段				入浴		
	自立	見守り	一部介助	全部介助	経管栄養	自立	見守り	一部介助	全部介助	歩行	歩行器等	車椅子		機械浴	ンチバスイ	個別浴
												普通型	その他			
実数(人)	0	24	32	12	12	0	5	38	37	3	1	58	18	32	19	29
割合(%)	0.0%	30.0%	40.0%	15.0%	15.0%	0.0%	6.3%	47.5%	46.3%	3.8%	1.3%	72.5%	22.5%	40.0%	23.8%	36.3%

ADL内容	日中排泄			夜間排泄			離床センサー		身体拘束	
	トイレ	Pトイレ	ベツト上	トイレ	Pトイレ	ベツト上	あり	なし	あり	なし
実数(人)	42	3	35	4	15	61	29	51	0	80
割合(%)	52.5%	3.8%	43.8%	5.0%	18.8%	76.3%	36.3%	63.8%	0.0%	100.0%

6.機能回復訓練状況

(1) 長期入所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	80	79	80	79	81	82	78	80	79	77	81	80	956
延回数	1,037	988	920	985	1,032	983	949	980	1,020	1,049	1,006	1,042	11,991

(2) 短期入所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	71	74	72	66	69	68	75	71	69	58	61	68	822
延回数	584	600	614	596	571	573	636	588	556	533	522	596	6,969

7.医療保険加入状況等

性別	保険別	後期高齢者医療保険	国民健康保険 共済組合保険	生活保護	重度医療 受給者	精神障害 者手帳	身体障害 者手帳	特定疾患 医療 受給者証
男		15	国保 0	1	5	0	8	0
女		63	共済 0	1	14	0	18	2
計		78	0	2	19	0	26	2

8.身体障害者手帳所持状況

種別 性別	1級1種	2級1種	2級2種	3級2種	4級2種	5級2種	6級2種	計	不所持
男	5	0	1	1	0	0	1	8	8
女	7	6	1	1	1	2	0	18	46
計	12	6	2	2	1	2	1	26	54

9.入所前状況

性別 \ 内訳	家庭	病院	施設	ホーム	計
男	3	7	5	1	16
女	27	14	22	1	64
計	30	21	27	2	80

10.身元引受人状況

続柄	男	女	計
配偶者	0	2	2
子供	13	59	72
兄弟姉妹	2	2	4
いとこ	0	0	0
甥姪	1	1	2
叔父叔母	0	0	0
後見人ほか	0	0	0
孫	0	0	0
計	16	64	80

11.年金受給状況

※併給者1名

種別 性別	国民年金	厚生年金	共済年金	無年金	家族 後見人 管理	不 明	計
男	0	0	0	1	15	0	16
女	1	1	0	0	63	0	65
計	1	1	0	1	76	0	81

12.要介護度状況

平均要介護度 4.09（男性 4.13 /女性 4.08）

区 分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	1	3	5	7	16
女	0	3	9	32	20	64
計	0	4	12	37	27	80

13.ボランティア受入状況（奉仕作業、慰問等）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計	66	11	19	2	74	38	28	44	24	72	0	27	405

14.家族面会状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計	487	546	439	500	668	567	533	542	492	572	304	463	2,906
1日平均	16	18	15	16	22	19	17	18	16	18	11	15	8
昨年度	451	572	509	466	606	443	424	451	412	550	459	507	2,998
前年比	36	(26)	(70)	34	62	124	109	91	80	22	(155)	(44)	(92)

15.行事報告※ ※施設にて企画したものを“行事”としているため、ボランティアによる訪問交流は含めていません

月	日	項 目	場 所	参 加 者
平成28年 4月	20日（水）	AM 園外散策（お花見）	観音寺川、運動公園ほか	5名
	20日（水）	PM 園外散策（お花見）	観音寺川、運動公園ほか	6名
	21日（木）	AM 園外散策（お花見）	観音寺川、運動公園ほか	5名
6月	16日（木）	運動会	ホーム食堂	76名、ボランティア70名
7月	21日（木）	手持ち花火大会	ホーム正面玄関前駐車場	95名
8月	4日（木）	夏まつり	ホーム正面玄関前駐車場	121名、ボランティア70名
10月	2日（日）	敬老会	ホーム食堂	71名、ボランティア27名
12月	17日（水）	もちつき・クリスマス会	ホーム食堂	90名

16.長期入所・短期入所実績及び前年度比較表

平成27年度				平成28年度			
月	長期入所	短期入所	計	月	長期入所	短期入所	計
4	2,299	575	2,874	4	2,316	582	2,898
5	2,278	612	2,890	5	2,315	606	2,921
6	2,258	604	2,862	6	2,246	617	2,863
7	2,230	611	2,841	7	2,333	598	2,931
8	2,340	569	2,909	8	2,394	570	2,964
9	2,229	545	2,774	9	2,326	574	2,900
10	2,314	564	2,878	10	2,276	642	2,918
11	2,294	577	2,871	11	2,283	593	2,876
12	2,433	637	3,070	12	2,358	564	2,922
1	2,428	594	3,022	1	2,328	536	2,864
2	2,238	589	2,827	2	2,003	525	2,528
3	2,373	582	2,955	3	2,343	606	2,949
計	27,714	7,059	34,773	計	27,521	7,013	34,534
前年比		長期入所	(193)	短期入所	(46)	計	(239)

[長期入所]

○実績：延 193 人減

○実績がウの要因

- ・昨年度は退所者 22 名だったが、今年度は 33 名と 11 名増えたことで空床が増えた。看取り希望が増え、延命を希望されない方が多くなった。
- ・入所 3 ヶ月以内に永眠された方が下期だけで 4 名おり、入所 1 ヶ月以内に永眠された方が 2 名おられた。入所対象者が原則要介護 3 以上になったことで、新規入所者も重度化している。
- ・年間で見ると入院生活が施設生活より長い利用者が 3 名いる。
- ・インフルエンザ から体調を崩す利用者が増え、冬期間入院者が多かった。入所者の重度化に伴い入院期間が以前より長くなっており、入院中に褥瘡が形成され再入院される方もおられた。
- ・待機者数が減っており、難病、感染症、褥瘡、高度認知症など現在の施設生活の現状では対応困難な方も入所になっていくことが懸念される。

[短期入所]

○実績：延 46 人減

- ・年度当初は順調に実績が上がっていったが、ロング利用者の長期入所や要介護度が低い方の他施設入所（グループホームや老健）があり、思うように実績は上がっていない。
- ・リハビリでは、リハビリルームに畳スペースができ、パズルや脳トレなども取り入れるようになった。また、訪問調査等で家庭生活にあったリハビリの提供ができるようになってきており、好評を得ている。
- ・空床利用は増えているが、男女別室や個室希望等で都度調整が必要である。
- ・余暇活動の充実を図り、園芸プログラムなどを開始し、好評を得ている。

○改善策

- ・入院状況確認などこまめに行い、長期入所者の空床を積極的に活用する。
- ・他居宅介護支援事業所への営業を行う。長期入所待機者の減少があるように、介護施設が増えたことで居宅介護者が減少している状況である。そのため、町外でもロング利用者など積極的に受け入れしていく必要がある。
- ・送迎が困難などではなく、需要があれば対応する姿勢で受け入れをする。
- ・介護教室などを開催し、地域への PR を図る。11 月 11 介護の日前後に地域ふれあい事業を実施予定。

ii 健康支援領域

1.病院受診状況

診療科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内 科	4	14	6	6	4	9	19	6	7	10	8	11	104
神 経 内 科	0	0	0	1	2	1	1	1	1	2	1	2	12
外 科	3	4	0	4	4	3	2	3	4	0	1	3	31
整 形 外 科	1	1	2	2	0	0	4	4	3	1	1	4	23
形 成 外 科	0	0	4	1	1	1	1	1	0	1	0	1	11
脳 外 科	0	0	1	0	2	0	1	1	0	0	0	1	6
泌 尿 器 科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
消 化 器 科	1	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	6
眼 科	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
婦 人 科	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
循 環 器 科	0	4	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	6
皮 膚 科	2	3	2	0	6	10	10	12	1	3	1	2	52
外傷再建外科	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	6
精 神 科	16	18	16	16	18	18	15	18	16	15	12	12	190
歯 科	0	0	3	3	4	10	2	9	8	8	6	1	54
救 急	3	1	3	0	0	2	2	1	2	0	1	0	15
計	31	47	41	34	44	54	58	58	45	42	31	38	523

2.入院状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	3	5	4	3	0	4	7	2	3	7	4	3	45
延日数	58	84	161	72	0	55	194	73	126	202	95	62	1,182

■受診状況について

今年度の受診延件数 523 件（昨年 457 件）で 66 件の増になっている。診療科別にみても全ての科で増になっており、特に内科（7 件→104 件）、皮膚科（23 件→52 件）、歯科（20 件→54 件）、救急（9 件→15 件）が著しい。

皮膚科は「疥癬」発症により湿疹者の受診が増加、歯科は口腔ケアの充実により、義歯作成等があり増加したと思われる。内科・救急の増加は、入所者の重度化が進み、異常の早期対応が充実してきた成果と考えられる。

■入院状況について

上半期は昨年に比べ延日数が 430 日（昨年 844 日）と大幅に減少し、1 人あたりの入院日数も 22.6 日（昨年 29.1 日）と減少、退院に向けての家族へのアプローチ

や看取りへの取組みの成果が現れてきたのではないかと考えられたが、下半期は入院者も増え 1 人あたりの入院日数も 28.9 日であった。そのため、今年度平均は 26.26 日（昨年 26.07 日）で昨年度とほぼ変わらなかった。重度化が進み、医療依存度も高くなり、1 人あたりの入院期間も長くなってきている。

疾患別では呼吸器系（肺炎 7 件）が多く、寒くなる季節も影響していたと思われる（消化器系 5 件、循環器系 2 件、他 1～2 件）。

早期退院に向けて今後も家族や病院へのアプローチを密にするとともに、看取りについての理解促進の取り組みが必要と思われる。

■感染症について

上半期ではインフルエンザ、ノロウイルスの発症はなかったが、インフルエンザが 1 月から発症し 3 月までに 7 名が感染した。通常疥癬（ヒゼンダニ）が 8 月末に 3 名発症し、9 月 30 日終息したが、潜伏期間があるため 1～2 ヶ月は注意観察したところ 10 月に 1 名、11 月に 2 名発症し、11 月 16 日に終息した。

感染症発生はあったが蔓延しなかった。感染症予防の周知徹底を図っていく。

3.栄養管理状況

(1) 食事摂取基準算定

年齢	性別	人数	熱量 (kcal)		蛋白質 (g)	
			推奨量	人数計	推奨量	人数計
50-69	男	2	2,100	4,200	60	120
	女	1	1,650	1,650	50	50
70-	男	14	1,850	25,900	60	840
	女	63	1,450	91,350	50	3,150
推定平均必要量				1,539		52
摂取基準				1,550		54

(2) 月別提供料

区分 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
熱量 (kcal)	1,643	1,642	1,643	1,662	1,674	1,673	1,682	1,674	1,665	1,684	1,667	1,667	1,665
蛋白質 (g)	61	59	61	61	62	62	62	63	62	62	61	60	61
脂肪 (g)	43	44	43	43	44	44	45	44	44	45	45	43	44
カルシウム (mg)	640	649	666	650	648	683	730	770	651	654	669	629	670
鉄 (mg)	8	8	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
ビタミンC (mg)	78	77	76	85	77	77	74	74	79	76	80	65	77
塩分 (g)	8	8	8	8	8	8	9	9	8	8	8	9	8

(3) 摂取状況

		前期		後期	
		人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
主食	飯	11	14	13	16
	おにぎり	1	1	0	0
	軟飯	14	18	13	16
	全粥	34	43	36	45
	全粥ミキサー	8	10	7	9
	経管	12	15	11	14
	計	80	101	80	100
副食	常食	15	22	16	23
	きざみ食	26	38	28	41
	超きざみ食	18	26	17	25
	ミキサー食	9	13	8	12
	計	68	99	69	101
提供量	常量	9	13	4	6
	ハーフ	19	28	18	26
	主食ハーフ食	18	26	20	29
	主食小盛	22	32	27	39
	主食大盛	0	0	0	0
	計	68	99	69	100
代替、栄養補助食品	ヨーグルト	6	9	8	12
	ヤクルト	9	13	11	16
	増粘剤	17	25	21	30
	栄養補助食品ゼリー	4	6	2	3
	栄養補助食品ドリンク	1	1	2	3

(4) 療養食ほか

項目		前期	後期
糖尿病食	1,400kcal	0	0
	1,200kcal	4	4
	1,000kcal	1	2
塩分制限食		1	1
経口維持加算		23	23
経口移行食		1	0
ワーファリン食		2	3

(5) 栄養ケアマネジメント

程度	前期		後期	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
低リスク	38	48	43	54
中リスク	36	45	29	36
高リスク	6	7	8	10

リスクの内容（複数あり）		前期	後期
中リスク	BMI低値（18.5未満）	14	10
	体重減少率高値（3～5%未満/月）	1	3
	アルブミン低値（3.6g/dl以下）	11	14
	食事摂取量不良（75%以下）	2	7
	経管栄養食	8	9
高リスク	体重減少率高値（5%以上/月）	0	2
	アルブミン低値（3.0g/dl以下）	4	3
	褥瘡形成	2	3

内容		年度内のリスク変動					
		高→中	中→低	高→低	低→中	中→高	低→高
アルブミン値	改善		3				
	低下				3	1	1
BMI	改善		2				
	低下						
褥瘡	治癒						
	形成					2	
体重減少率	改善						
	高値						
経管栄養	終了						
	開始				1		

IV 第二事業課事業経過報告

平成 29 年 3 月 31 日現在

i 在宅福祉支援領域

a) デイケア事業

1. 要介護度別利用実績

要介護度	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	男	5	5	4	5	5	6	6	5	3	3	3	3	53
	女	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	6	5	67
	小計	11	11	10	11	11	12	12	10	8	7	9	8	120
要支援2	男	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
	女	10	10	10	9	10	10	11	9	10	11	10	10	120
	小計	13	13	13	12	13	13	14	12	13	14	13	13	156
要介護1	男	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	3	5	49
	女	27	27	27	29	27	25	25	26	24	23	24	27	311
	小計	31	31	31	33	31	29	29	30	29	27	27	32	360
要介護2	男	8	7	9	6	4	3	4	3	3	4	5	4	60
	女	26	27	25	24	24	25	23	20	23	22	21	23	283
	小計	34	34	34	30	28	28	27	23	26	26	26	27	343
要介護3	男	4	4	2	4	5	4	5	4	4	5	4	5	50
	女	14	14	13	14	14	15	16	18	17	17	15	14	181
	小計	18	18	15	18	19	19	21	22	21	22	19	19	231
要介護4	男	0	0	0	0	1	2	1	2	2	1	1	1	11
	女	4	4	4	4	5	5	5	5	3	3	4	3	49
	小計	4	4	4	4	6	7	6	7	5	4	5	4	60
要介護5	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	1	2	2	2	2	1	2	3	3	2	3	24
	小計	1	1	2	2	2	2	1	2	3	3	2	3	24
合計	男	24	23	22	22	22	22	23	21	20	20	19	21	259
	女	88	89	87	88	88	88	87	85	85	83	82	85	1,035
	小計	112	112	109	110	110	110	110	106	105	103	101	106	1,294
利用者 延人数	男	161	162	139	133	141	149	144	117	132	132	127	153	1,690
	女	536	554	545	553	544	550	571	535	540	489	470	544	6,431
	合計	697	716	684	686	685	699	715	652	672	621	597	697	8,121

「笑顔のある安心した暮らしを支援しよう」をスローガンに、生活リハビリに重点を置き、レクリエーションなどにて身体機能の維持向上に努め、楽しい時間を提供してきた。また、住み慣れた自宅で生活が出来るように、サービスの提供により介護者の負担軽減を図った。

冬期間、体調不良や悪天候によりキャンセルされる方が多かった。そのため、一日の平均利用者数が 21.7 人と上期より 1～2 人減少し、実績が伸び悩んだ。今後、地域を拡大し利用者の獲得につなげていく。

また、冬期間、車両事故が数件あった。重大な事故にはならなかったが、運転業務においても安全第一を心がける。

2.要介護度別平均年齢

要介護度	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	男	86.62	86.70	84.88	82.30	82.38	83.21	83.29	83.27	85.83	85.92	86.00	86.08	84.71
	女	87.96	88.04	88.13	88.21	88.29	88.38	87.40	86.88	86.97	86.6	88.50	88.88	87.97
	平均	87.35	87.43	86.83	85.52	85.61	85.79	85.35	85.08	86.54	86.31	87.67	87.83	86.44
要支援2	男	83.89	83.97	84.06	84.14	84.22	84.31	84.39	84.47	83.39	83.47	83.56	83.64	83.96
	女	86.73	86.82	86.90	86.46	86.63	86.71	86.89	86.69	85.43	85.81	85.40	85.48	86.33
	平均	86.08	86.16	86.24	85.88	86.07	86.15	86.36	86.14	84.96	85.31	84.97	85.06	85.78
要介護1	男	84.31	84.40	84.48	84.56	84.65	84.73	84.81	84.90	82.40	81.90	81.53	84.98	83.97
	女	86.90	87.30	87.74	88.01	88.07	87.64	87.55	87.44	87.83	87.79	88.07	88.09	87.70
	平均	86.57	86.93	87.32	87.59	87.63	87.24	87.17	87.10	86.89	86.92	87.35	87.60	87.19
要介護2	男	81.84	82.18	84.21	86.40	84.04	89.14	88.02	86.64	86.72	84.10	83.32	80.77	84.78
	女	90.36	89.65	88.97	89.43	89.47	89.70	89.69	89.96	89.76	89.71	89.75	90.10	89.71
	平均	88.35	88.12	87.71	88.83	88.69	89.64	89.44	89.53	89.41	88.85	88.51	88.72	88.82
要介護3	男	86.02	86.10	83.67	80.81	83.63	77.31	80.03	79.27	79.35	80.52	78.02	80.68	81.28
	女	90.10	90.18	90.08	89.91	89.99	90.13	89.83	89.71	89.58	89.67	89.53	89.44	89.85
	平均	89.19	89.27	89.22	87.89	88.32	87.43	87.50	87.81	87.63	87.59	87.11	87.14	88.01
要介護4	男	0.00	0.00	0.00	0.00	76.75	82.38	76.92	84.75	84.83	77.17	77.25	77.33	53.12
	女	91.35	91.44	92.81	92.90	93.28	93.37	93.45	94.31	93.89	93.97	93.19	93.17	93.09
	平均	91.35	91.44	92.81	92.90	90.53	90.23	90.69	90.48	90.27	89.77	90.00	89.21	90.81
要介護5	男	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	女	90.00	90.08	91.67	91.75	91.83	91.92	90.50	92.08	92.19	92.28	91.63	92.44	91.53
	平均	90.00	90.08	91.67	91.75	91.83	91.92	90.50	92.08	92.19	92.28	91.63	92.44	91.53
計	男	84.20	84.46	84.31	83.81	83.38	83.30	83.54	83.61	83.35	82.60	82.06	82.76	83.45
	女	88.72	88.68	88.70	88.86	88.99	89.02	88.82	88.79	88.74	88.75	88.81	88.93	88.82
	平均	87.75	87.81	87.81	87.85	87.87	87.87	87.71	87.74	87.71	87.55	87.54	87.71	87.74

3.車両運行実績

車種 月別	走行距離 (km)			
	ハイエース1	ハイエース2	ステップ 5	ステップ 6
4	986	1,040	1,291	1,296
5	1,074	1,052	1,214	1,242
6	940	965	1,308	1,322
7	993	946	1,232	1,538
8	930	1,081	1,294	1,315
9	998	940	1,347	1,384
10	1,091	990	1,419	1,366
11	994	966	1,134	1,310
12	1,127	563	1,219	1,375
1	923	0	1,019	1,266
2	879	0	1,151	1,238
3	1,080	170	1,409	1,341
計	12,015	8,713	15,037	15,993

b) 訪問入浴介護事業

1.月別利用実績

月 項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者実数	13	11	13	15	15	12	14	14	14	13	12	14	160
延実施日数	20	19	20	20	22	20	20	20	21	20	20	22	244
延利用回数	61	56	58	66	69	67	66	58	60	46	48	57	712
1日平均	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3
登録者数	14	12	14	16	16	13	15	16	17	15	13	15	176

2.地区別登録利用者

地区 性別	吾妻	長瀬	翁島	猪苗代	千里	月輪	計
男	0	1	1	1	0	0	3
女	1	4	2	3	1	1	12
計	1	5	3	4	1	1	15

3.年齢別登録利用者

年齢 性別	～59	60～69	70～79	80～89	90～	計
男	1	1	0	1	0	3
女	2	0	0	3	7	12
計	3	1	0	4	7	15

4.車両運行実績

(単位 : km)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
走行距離	633	568	601	679	763	689	680	605	618	463	460	574	7,333

事業実施日 244 日 平均走行距離 611 km/月

5.要介護度別利用者

要介護度	1	2	3	4	5	障害者	計
人数	0	1	1	6	5	2	15

要支援
0名

登録利用者数が減少し実績は落ちているが、1日の平均利用回数は3.1回と前年度とあまり変わらない。

6月から8月にかけて6名のターミナル期利用者の依頼があり、提供した。自宅で家族の見守る中で安心して入浴することができ、ご本人様及びご家族様の安堵に繋がったと考える。

今後も利用者様のニーズに応えられるようサービスの提供に努めていきたい。

ii 居宅介護支援領域

ご利用者様が住み慣れた自宅において、ご家族とともに安心して生活を送ることができるよう、利用者ご本人並びにご家族の生活に対する意向や介護負担などを考慮に入れながら居宅サービス計画書を作成している。サービスの提供にあたっては、主治医や関係機関などの指導を仰ぎながら各サービス提供事業所との連携を図り、チームでの支援に努めるとともに、より良いサービスの提供のため、個々のスキルアップにも努めている。

1. 要介護認定訪問調査実施状況

月 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
H27	43	53	60	48	49	48	41	42	37	39	41	36	537
H28	34	23	50	28	23	21	16	16	34	21	20	30	316

今年度の認定調査の実施状況については集計表のとおりであるが、居宅介護支援事業所が増えていることもあり、行政よりの調査依頼数は、前年対比 58.8%となっている。

2. 居宅サービス計画作成実績

月 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
H27	185	187	187	185	189	187	189	180	181	179	173	174	2,196
H28	177	181	185	184	183	182	184	179	177	172	166	172	2,142

今年度の計画作成件数実績は 2,142 件で、前年同期対比 97.5%であり、介護支援専門員 1 人当たりの月計画作成平均件数は 35.7 件となっている。

3. 計画作成依頼登録数

月 性別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男 性	繼續	56	58	57	55	53	52	53	53	49	49	48	48	631
	新規	2	1	3	0	1	2	0	2	2	2	0	2	17
	終結	0	2	5	2	2	1	0	6	2	3	0	2	25
	小計	58	57	55	53	52	53	53	49	49	48	48	48	623
女 性	繼續	162	165	163	163	160	161	162	163	163	165	162	160	1,949
	新規	5	3	1	1	3	5	3	3	4	0	3	5	36
	終結	2	5	1	4	2	4	2	3	2	3	5	1	34
	小計	165	163	163	160	161	162	163	163	165	162	160	164	1,951
合 計		223	220	218	213	213	215	216	212	214	210	208	212	2,574

V 委員会報告

平成 29 年 3 月 31 日現在

1. 感染症対策委員会

■事業目標

- ①利用者および職員が感染症に罹患しない、または蔓延しないよう予防に努める
 - ・施設内の環境を整える。
 - ・手洗いやうがいの励行を促し、研修を実施、個人の意識を高めていく。
- ②2 か月に 1 回の委員会を開催するが、感染症が発生した時には随時委員会を開催する

■実施内容

- ・毎日各居室の室温と湿度をチェックし用紙に記入、管理していく。
- ・食堂などは湿度が乾燥傾向にあるため、室温と湿度の計測は継続して行う。
- ・5～6 月頃より食中毒が発生しやすくなるため、各部所の冷蔵庫の清掃や整理整頓を行う。各居室においては、各個人の食べ物や水分補給に使うペットボトルの管理をしていく。
- ・8 月下旬と 11 月 16 日に外部講師を招いて研修を行い、特殊な液体と機械を使用し、どれだけ手が汚れているのか体験した。その結果、汚れが指先・爪の周囲・指の股・親指の付け根・手首が残りやすく、その部分を念入りに洗う必要があることが分かり、自分が媒介者とならない事の大切さを再認識した。
- ・今期は長期入所者 8 名がインフルエンザに罹患した。都度、臨時の委員会を開催し、対応策を話し合い、発症した方と同室の方や同じテーブルで食事食べている方も含め準隔離とし、カーテン仕切りなどで対応し、集団リハビリも 707 単位で実施した。また、施設内に感染源を持ち込まないをモットーに、面会制限と面会者含めての「手洗い」「うがい」「検温」の励行するとともに、利用者および職員の健康管理を徹底することで蔓延することなく終息できた。
- ・今期ノロウイルスの発症はなかったが、ノロキット（吐物の処理）の使用についての研修ができなかったため、次年度では研修を開催し、職員への周知を図りたい。

■普通疥癬の発生について

- ・6 月に多生苑猪苗代にて疥癬発生との情報が入る。
- ・多生苑猪苗代及び町立猪苗代病院に関係のある利用者については皮膚状態の観察を行うよう注意喚起した。
- ・8 月下旬に、長期入所者 2 名疥癬発症。（同室者。内 1 名は町立猪苗代病院からの入所者。）その後職員 1 名発症する。
- ・9 月に入り長期入所者 1 名、デｲｯｼﾞｰｽ利用者 1 名の疥癬発症あり。（町立猪苗代病院入院の既往あり。）
- ・長期入所者は、静養室での対応とし、デｲｯｼﾞｰｽ利用者については、完治の確定診断後の利用再開とした。その後別のデｲｯｼﾞｰｽ利用者 1 名に疥癬が発症し、今年度は長期入所者 3 名、デｲｯｼﾞｰｽ利用者 2 名の発症となった。
- ・随時、臨時の感染症委員会を開催し、対策を協議し、情報を共有した。
- ・入浴時など皮膚状態の観察を行い、異常時や疑わしい症状がある場合には皮膚科受診を

勧め、対応した。

- ・疥癬の潜伏期間は1か月間と比較的長く、高齢者では数ヶ月かかることもある。
職員が媒介とならないよう、各個人が十分に注意した対応を心がけることが大切であるため認識を高めていく。

2. リスクマネジメント委員会（上期）

■目標

利用者及び家族が安心して生活できるようサービスを提供する。そのため組織的に事故防止に努め、より質の高いケアを目指し、体制づくりやハード面の改善、職員のスキルアップを図っていく。

■上期の特徴

- ・骨折3件、誤嚥2件の重大事故の発生があった。
- ・転倒、転落等が今年も全体の約65%を占めており、発生数は若干高くなっている。
- ・表皮剥離も特定の利用者で繰り返されている。
- ・異食や誤薬は減少がみられた。
- ・季節の変化から不穏者が増え、事故が多発した。
- ・同じ利用者が短期間で転倒を繰り返すことがあった。
- ・4月は異動や新任職員の入職による利用者状態の把握不足があり、それに伴い利用者も不穏になる傾向がある。反省をもとに5、6月で改善され、仕事に慣れてきた7月にまた事故が繰り返されるという3ヶ月周期がある。

■改善へ取り組み

- ・事故発生時はタイムリーに振り返りし、原因分析を行い、再発防止に努めた。
- ・問題となる介助等は、その都度いなければ研修し、改善を図る。
事故の振り返りを行ったら、3日間、朝礼後ミーティングで流し、改善点等を周知している。
- ・以前は事故現場を写真として残し、事故改善の資料にしていたが、現在は処置等を優先し、事故の様子については、振り返り時に写真を撮り検討することとなった。
- ・事故、ヒヤリハットの集計結果と改善点を職員会で周知し、全職員共有の情報とする。
- ・いなけんによる介護技術等の向上も徐々に図れるようになっていく。
- ・生活介護利用での介護技術向上とリスク回避の介助方法を学ぶ。

■身体拘束について

- ・7月の職員会で全職員に身体拘束についての研修を実施した。
- ・夜間不眠で大声を出した利用者を、他者の迷惑にならないように浴室の脱衣所にて様子観察したことが1件あった。介護者がその場を離れば身体拘束及び虐待になることを認識せずにとった行動であった。
いなけん等で身体拘束について再度研修等を開催する必要がある。
- ・スリープロックがケアの際に聞かれるため、職員が相互に注意し、改善を図っている。

3. ケア向上委員会

■ケア向上の取り組み

- ・日々の生活において、担当職員が介護技術について勉強し取り組んだ。

- ・利用者一人ひとりに関しては、ご家族と連携を取ってケアにあたった。
- ・東北ブロック研修を参考に各職員が協力し、取り組んだ。
- ・ターミナルケアに関してアンケート調査を実施した。調査に基づきマニュアル見直しなどケア向上に取り組んでいく。
- ・平成 28 年 11 月 12 日（土）に第 1 回地域ふれあい事業を開催し、猪苗代町民を対象とした介護講座を実施した。

4. 給食委員会

より良い食事提供が出来るよう、楽しくおいしく食べる事が出来るなど利用者様の食環境が良くなるように各部署の職員・委託業者も含め、年 6 回の計画の下、話し合いをしている。

■主な内容

- ・行事食の確認
- ・非常食などの内容や置き場所の確認
- ・おやつや水分などの現状と要望
- ・食中毒予防、食器に嘔吐された時などの対応の統一
- ・コップなどの食器の選定
- ・保健所立入検査結果、メフォス衛生検査の周知

■対応事項

- ・非常食については、飲料水（5 年保存水）について毎年 5 箱購入し更新することとした。
- ・おやつについて、手作りおやつやアイスクリームの提供を増やしてほしいなど意見があり対応した。
- ・食中毒予防や食器に嘔吐された時の対応については、何度かプリントを配布したり掲示板に張り出したりし、対応の統一を図っている。
- ・食器の選定については中身が分かる方が良いという意見があり、分かるコップを購入することにした。他ご飯茶碗を中に色がついている方が、ご飯が見えやすいという意見があり購入するようにした。
- ・禁食（食べられないもの）の対応について、出来れば「アレルギーがあるもの、どうしても食べられないもの」を聞き取るようにしてもらいたい。

5. 行事委員会

■事業報告

- ・園外散策→春、秋の園外散策は通年通り、小板橋哲也介護主任主導にて実施。
- ・運動会(6/16)→事前に雨天予測され、あらかじめ屋内開催として実施した。
- ・手持ち花火(7/21)→事故等なく実施。
- ・夏祭り(8/4)→事故等なく実施。
- ・敬老会(10/2)→疥癬の為、事前の日程から変更して実施。
- ・もちつきクリスマス会(12/15)→新行事として、委員会内でプログラムやタイムスケジュールの調整を数回行い、事故等なく実施。
- ・歳の神(1/13)→事故等なく実施。

- ・豆まき会(2/2)→施設内インフルエンザ流行しており、慰問の中止など内容を変更して実施。
- ・行事開催前後の委員会の開催。
- ・部署ごとに季節飾りの実施(だんごさし、ひな壇など)。
- ・3月第一倉庫内の行事関係物品の整理

■総括

行事ごとに事前に委員会を開催し、必要物品の注文や家族会との連携を取りつつ実施することができた。また、行事終了後の委員会内で、次回開催に向けての振り返りを行うことで、来年度の行事運営の円滑化を図ってきた。

今年度は、昨年度と比較して、全体的に家族参加数の増加が見られたが、それによる事故等はなく行事を実施することができた。

問題点としては、役職を持たない委員の意識の低さが浮き彫りになっている。業務やプライベートを理由に委員会への参加が出来ない場合が多く、同僚の職員に代理を依頼する職員や事前に委員長へと連絡を行う職員が数名いる一方、事前連絡等なく委員会に参加しない職員が多数おり、各部署への情報伝達が円滑に進まなかったり、そもそも伝達されていない状況が見られたりといった問題があった。また、委員会所属でない職員の行事への協力意識も低く、家族駐車の為に事前告知している駐車形態を守れない職員が数名みられるなどの問題も見られた。行事の内容としては問題なく実施することができていたが、そういった事前の段階での職員の意識的な問題の解決も今後の課題となってくる。

6. 防災委員会

■計画

- ・月1回の避難訓練の実施。
- ・昨年作成した「災害時対策及び対応の手順書」の検証。
- ・防災教室の開催（今年度もしくは次年度）。9月の防災の日に実施する。
- ・7月に総合防災訓練及び通報訓練を実施（年1回）。
- ・職員向けAED講習会（応急救護訓練）の実施。
- ・非常時持ち出し用利用者個別情報シートの作成（トリアージ含）。

■結果

- ・月1回の避難訓練を実施していく中で様々な問題点、改善点が上がるが、都度、訓練内容に反映させている。
- ・総合防災訓練では消防設備の理解不足が浮き彫りになった。訓練を通して改めて再確認する。
- ・自然災害に対応した避難訓練を実施した。
- ・第1回猪苗代町高齢者事業所防火防災座談会へ参加。当施設の防災の取組みを発表。その際「利用者個別情報シート」のテンプレートを提供していただいた。
- ・「利用者個別情報シート」は猪苗代消防署から提供されたテンプレートを使用し部署毎に作成した。

7. 広報委員会

■事業目的

法人、地域への適正かつタイムリーな情報の発信

■事業計画

- ・年4回の機関紙白鳥折り込み
- ・法人ホームページ内スタッフブログの更新
- ・その他広報活動

■事業実績

- ・機関紙白鳥折り込み
第86号...H28.7.25 折り込み
第87号...H28.10.31 折り込み
第88号...H29.1.29 折り込み
第89号...H29.4.30 折り込み
- ・「いなわしろホーム地域ふれあい事業」周知チラシの作成・折り込み（H28.11.4）
- ・「いなわしろホームデイサービスセンター総合事業のご案内」周知チラシの作成・折り込み（H29.4.30）

■課題

- ・法人ホームページ内スタッフブログの定期的な更新

8. 施設物品管理委員会

■計画・実績

○日常物品（対利用者・職員）の在庫管理及び購入

→毎月実施。月末までに必要物品取りまとめ、注文書作成、発注を行う。

○職員被服の購入

→領域ごとに被服選定し11月配布。

○災害用物品の更新、周知

→在庫の確認を行い11月に購入・更新。リストを作成・配布しどこに何が準備されているのか周知を図った。

○災害時用スタッフジャンパーの購入

→H29年度へ。

○中庭の整備。

→5月に委員を中心に花や野菜の苗植えを実施。

○修理物品の「見える化」

→どこが故障していて、いつ修理依頼したのか等を貼紙でわかりやすく管理、また修理必要な物品の修理伝票を滞りなく提出し、すみやかに修理できるよう管理。

○文書保管場所の整理。

→7月に重要文書等保管倉庫の整理実施。

9. 安全衛生委員会

■取り組み

- ・職員の安全と健康の確保。
- ・快適な職場環境づくり。

■内容

- ・4月：健康診断及び腰痛検診。検査結果で異常値がある者は病院にて再検を行った。

- ・ 9 月：講演「こころといのちを支える地域づくり～リラックス健康法とカウンセリングマインドを身につけよう～」。講師「大森洋亮」。
- ・ 10 月：ストレッチ、深夜健診及び腰痛健診。検査結果で異常値がある者は病院にて再検を行った。
- ・ 12 月：職員インフルエンザ予防接種。職員 1 名発症。今年は育児休暇の方も接種して頂いた。

10. 腰痛予防マネジメント委員会

■目標

利用者にとっても職員にとってもムリのない介助方法を検討し、職員の腰痛を予防、または、軽減する。

■計画

707毎に介助しにくい利用者を選定し、スムーズに介助出来るようシステム面・物的環境面・職場環境面から原因を探り、その改善策について各部署から意見を出し合しあうことで、期間内に目標を達成できるよう図る。

■取り組み

- ・ 第一事業課では、前年度取り組んでいた移乗介助とベッド上での処置の作業項目に加えてトイレ介助の作業項目についても原因を探っていく。
(707内で事例を出して誰のどの辺がやりにくい原因を出してもらう)
- ・ 第二事業課の訪問入浴介護事業では、足の拘縮が強い利用者を浴槽まで移乗介助をする際、腰痛を感じるという意見あったため、訪問入浴介護事業の職員の意見を聞きながら、事例に基づき原因の分析をしていく。

■結果

選択した利用者の身体状況の低下や永眠により取り組みが中止となり、継続が困難であった。また、他707で行なっている取り組みに対する周知不足もあったため、委員や各707リーダーが率先して各職員へ呼び掛ける必要があった。

取り組みが途中で中止となってしまったが、事例的な取り組みより個別ケアに対する質の向上や腰痛予防に対する各職員の意識が以前より高まったと感じている。また、状況に合わせた業務割りの見直しや介助方法についての勉強会の定期開催は、一般化でき、法人全体として活かしていけると考える。

11. 研修委員会

【平成 28 年度委員会の目標】

- ①キャリアに応じた研修体制の整備をする事で職員の成長を促し、提供するサービスの質の向上が出来る
- ②職員が将来像を描き、目標を持って仕事に取り組むことで仕事を通した事故現実に貢献する
- ③手厚い研修体制によりモチベーションを高め、人材の定着、採用に資する

【研修理念】

- ①人間として成長する
- ②社会福祉人としての倫理観と援助感を高める

- ③それぞれの専門性を高める
- ④次世代の社会福祉を担う人材を育てる
- ⑤地域の社会福祉感を高める

【育成方針】

- ①職員全体で育成し互いに成長する
- ②長期的視点をもって育成する
- ③気づきや考える事を促し、主体性を育む
- ④勇気づける
- ⑤アサーティブな対応を心がける

■テーマと実績

○個人・年間研修班

①個人研修について

offJT としては研修掲示板を作成し、当施設に通達があった研修を社協主催のものを中心にほのぼのの案内にて紹介する取り組みを行った。数件ではあるが、掲示板を確認し『行きたい』と自身から申し出て研修へ参加できた職員が見られ、研修に対して active な方向へ風土が少しでも動いてきていると思われる。OJT については職場内の研修として職員会を利用した。委員会に主宰を依頼したものについては概ね実施出来ているが、その他に予定していたものについては、必要と思われる内容の講習を詰め込み過ぎてしまい、通常業務との兼ね合いの中で時間が取れず実施出来なかったものもあり、更には職員会の運営責任者が曖昧だった為、連携が上手く図れずに実施出来なかったという事もあげられる。いずれも各責任部署が計画的に実施できたとは言い難く、個別研修計画の立案と実施、それに伴う指導的マネジメント力の向上、連携力の強化が課題となる。

②フリエターシップについて

フリエターシップの活用について、方法論は部署、フアごとに多少異なるも、半年、一年を通して一つの取り組みとして実施出来たことに意義があると思われる。対象者からの意見・感想としては、指導者とフア職員との間に熱意の差や、目標達成のハードルの高さの差があるとの指摘もあったが、一つ一つのフアを丁寧に教えてもらう事が出来、更に頑張る為の起爆剤になったとの話があり、今後も取り組み方や書式の精査を行いながら、新入職員のより良い成長に繋がられるよう継続していく。

③キャリア育成について

新任職員については時期や回数に変更はあったが、予定していた入職時の講習や、読書感想文、振り返りテスト等を概ね実施出来た。フリエターシップについても上記した様に良い方向へ進んでいる。

指導的立場の職員については職場環境向上研修を年 6 回実施したが、その内容を施設へ還元できているかという所に問題が残っている。

○いなけん班：風土（研修に対する意識について・風土の醸成具合について）

いなけんを始めたことで、書類作成負担や形式張る負担を軽減し、少しずつでも勉強してみようと思い始めている職員が増えている印象。ただし、簡略化した手順や書式につい

でも負担に感じている職員もいるであろうことは否めなく、全体で積極的に取り組む風土への移行ができたとは言い難い状況。

○介護力向上委員会とのコラボ：地域社会への還元
地域ふれあい事業の実施。

12. ボランティアマネジメント委員会（上期）

■資源物回収（上期は中間回収のみ）

ペットボトルキャップ、インクカートリッジ、プルタブ、ベルマークなど。

■磐梯まつり参加

7/24「会津磐梯山総おどり」に参加。参加人数：大人 16 名、子供 8 名。仮装はせず、ホーム法被を着用し、旗を 2 本持つ。

■ボランティア受け入れ対応

シルバー人材センター登録者約 30 名が地域貢献事業にて 11/10 来所予定。内容を検討。感謝状作成し、贈呈予定。

13 苦情解決委員会

平成 27 年度施設内に「ご意見箱」を増設し、利用者及び家族からの要望等を反映させる取組みを実施している。

貴重なご意見等をサービス向上につなげるため、第三者委員への定期報告、理事会での報告、職員への報告等を行っている。

また、苦情解決への取組みを利用者及び家族に周知する方法として施設内への掲示やいなわしろホーム機関紙「白鳥」へ掲載、周知し情報公開に努めた。

今後の課題としては、「利用者からの意見等に対応するマニュアル」により日常から利用者様の声に寄り添い、満足度の高まる取組みをしてサービスの質を高める機能を委員会で考える必要がある。

■委員会開催

○6 月 16 日

長期入所者家族：要望 1 件、苦情 1 件について

○9 月 4 日

通所介護利用者家：苦情 1 件について

○10 月 31 日

平成 28 年度上期報告及び周知について

○11 月 29 日

故長期入所者遺族：要望 1 件について

○3 月 4 日

長期入所家族：苦情 1 件・要望 1 件について

以上